

## 平成 29 年度第 2 回浜田市環境審議会会議録（概要）

【日時】平成 29 年 8 月 21 日（月）

午後 1 時 30 分～3 時 00 分

【会場】浜田市立中央図書館多目的第 1, 2 ホール

### 1. 開会

【出席状況】委員出席 16 名 委員欠席 3 名 幹事出席 3 名 事務局出席 3 名

### 2. 会長挨拶

### 3. 新委員の紹介

### 4. 審議事項

三隅発電所 2 号機建設変更計画環境影響評価準備書について

(1) 概要説明

(2) 答申（案）の審議

・中国電力株式会社による「三隅発電所 2 号機建設変更計画環境影響評価準備書」の提出に伴い、建設に関係する自治体である浜田市に島根県より平成 29 年 9 月 29 日を締め切りに意見の照会があった。この意見照会に対して浜田市では浜田市環境審議会に諮問し、意見を求めた。本会では浜田市への答申案について審議していただいた。

#### 【委員からの主な意見・質問】

・重金属等微量物質の排出は燃料に使用する石炭の性状により、大幅に変化するということが危惧される。2 号機においても、排出について定期的に測定・公表をし、大気環境への因果関係の有無が確認できるよう必要な対策を行って欲しい。

「検体数が乏しく、大気への排出割合の算出が困難であった」と「準備書についての意見の概要と事業者の見解」に書かれているが、1 号機運転開始から 20 年近く稼働しているにも関わらず、このように検体数が乏しい状況に至った要因は何なのか。不足しているデータはどのようなものなのか。現状は把握されているのか。1 号機の実測データが使用できないこと事態が大きな問題ではないのか。

→（事業者）想定する石炭のそれぞれの値を含み、一番厳しいところを見ているため、安全だと評価している。石炭への含有量から大気排出への割合の変換については、電力中央研究所の実績ある割合を使っているが、中国電力による実績データが無いというのが事実である。運転開始後 2 回煙突からの重金属、石炭中の重金属を確認したが、同じ石炭で同じタイミングで大気を測るといったデータ採取をしていないというのが事実であり、文献を使わせていただいたところである。

・灰捨場の容量増加、嵩上げによる灰等の飛散について、近隣住民が安心して生活できるよう発電所近傍居住地での常時観測と測定結果の定期的な公表を行うよう必要な対策を図ってほしい。「準備書についての意見の概要と事業者の見解」に「粉じん等の飛散が疑われる場合は、当社まで連絡いただき、確認をさせていただく」といった対応になっているが、そうではなく近隣住民が安心して生活ができるような対策をとってほしい。

→（事業者）粉じんの調査については、心配な事があれば出向いて調査をすることを約束させていただいているが、常時監視となると比べる基準がないので、中々設置が難しい。状況

を見ながら進めさせていただきたい。

・灰捨場の余水について、日常排水量が 1,100 m<sup>3</sup>/日から 3,000 m<sup>3</sup>/日に増加するとのことだが、水質が変化しないというのは疑問だ。

→（事業者）今灰捨場が埋まり、海の部分がだんだん狭くなっている。なので、灰捨場に降り込む雨量は同じでも、ストレージは小さくなっていくため、一気に出さなくてはならないということから、容量アップする。汚濁化的には同等かなと思うが、この辺の審査は廃棄物処理法に基づき、準備し、申請することで進めている。この手続きには水質の項目もあるので、そちらで評価をさせていただく。

・底質の有害物質について、2号機増設に伴い海域工事は行わないことから底質については評価項目に選定されていないため、底質の現状も予測・評価も確認できない状況になっている。「平成9年、平成11、12年に底質調査を実施しておりますが、1号機の運転開始前後で顕著な変化は見られていない」とあり、平成12年以降は調査されていないということだが、評価書では底質も評価項目として選定してもらいたい。そして、経年変化が確認できるような観測対策をしてもらいたい。

→（事業者）基本的に国のアセスメントだと、海域の工事が無いため対象ではないと方法書ではご審議、ご理解いただいた。以前1号の運転開始前後でも底質を調査し、報告をさせていただいたが、前後で顕著な違いはないということであった。地元の懸念として、石炭灰があるのではないかと、ということがあると思う。この件に関しては、岡見川などの岸壁で底質を採取するなどして、確認をしている。

・石炭の灰捨場の水の関係で、日常 1,100 m<sup>3</sup>/日から 3,000 m<sup>3</sup>/日になるとのことですが、この水は海水か。工業用水か。

→（事業者）基本的に灰捨場の水を再循環させて、新しい灰を運ぶため、新たに付加する水というものはない。余水自体は何かというと降雨である。灰捨場の構造はダムと一緒に、調整のための池があり、嵩を上げていくと最後容量が小さくなるので、その容量分を吐くために、機能を増強する。基本的に処理する量が平常的に増えるということはない。現状とほとんど変わらず、出る量が一時的に増える。このことについては廃掃法で評価をしているという状況だ。

・出雲の方に視察に行った時に、「三隅の灰を持ってきて再利用している。その量を増やす計画がある。」と聞いたのだが、今後どのように灰の再利用について考えているのか。

→（事業者）

出雲の件は分からないが、灰はセメント原料にリサイクルするということを原則としている。ただ、公共事業等変動があるので、どうしても処理できない時期がある。発電所を止めるわけにはいかないのだから、灰捨場の嵩上げをおこなっていく。当社としても土工材料として出雲以外にもいろんなところにリサイクルできるように有効利用に取り組んでいるので、できるだけ延命化しながら灰捨場を使っていきたい。ただ、将来的に容量を確保する必要があるのだから、今から嵩を上げるということの説明した状況だ。

・バイオマス燃料は1号機で使っているが、2号機は未定なのか。

→（事業者）バイオマスについては、1号機は現在使っており、こちらは引き続き使う。2号機については、どのように対応していくか検討中である。

・セメントの材料にする工場があると思うのが、工場を大きくせず、処理出来ないものについては埋め立てるということか。

→（事業者）埋め立てるのはごく一部であり、セメントなどへの有効活用をしていく。現在の設備をできる限り努力して、長く使って行きたいと思う。

・発電には真水を使うと思うが、2号機ができることで、より必要になると思われる。その水というのは足りるのかっていうのが疑問なのだが。

→（事業者）用水に係る事項で工業用水は最大が1,200 m<sup>3</sup>/日ぐらいとアセスの評価に書いている。浜田市との契約になるので、将来的にどのような値になるのか、協議をしているところだ。

・今回の評価は発電所が建てる側が出した数字となるが、実際に稼働した場合、浜田市としてはどうすると考えているのか。

→（事業者）我々がカバーできる範囲であれば、調査はできるとは思いますが、専門分野となるとカバーは仕切れないところもあるので、中国電力(株)とも情報共有しながら検討したい。

・2号機の建設により大気中に排出される量は確実に増えると思われまます。1号機と比べて2号機では大気中に排出される重金属量は低減はされると思うが、量については増えると思われる。トータルで現在よりも逆に2号機を建設することで減るとか、現状と変わりませんよということになれば地元も安心できるし、誰も環境の影響についても反対される方はいないだろう。引き続き1号機についてもトータルの面で努力をされるべきではないか。

→（事業者）ご指摘のとおり今度2号機ができるので、量的には増える方向である。モニタリングのデータとしては1号機ができる前から重金属については測っている。今まで1号機建設の前後で顕著な変化は無いし、これからも引き続き測定をしていきたい。

・石炭の量は1号機より2号機が増えているが、これはバイオマスの関係か。それとも、効率が違うのか。

→（事業者）バイオマスの燃料は含んでいない。増えたのは1号機より炭種の幅を広げたいと考えたからだ。あまり灰が出ないような石炭を積極的に使っていきたいのだが、カロリーが低いので基本的には量が増えるということになる。

・石炭が変わっても排出原単位は変わらないのか。

→（事業者）一律石炭には係数があり、なかなか整合性がないものもある。基本的には記載のとおりとなる。

・灰捨場のことで雨水の話が出たが、記録的豪雨とかあったときに何か起きなかったのか。

→（事業者）先般の雨でも十分耐えている。3年前も豪雨があったが1日で130mmだったと思うが、そのような状態でも持てるようになっている。

・工事の排水は浮遊物質の調査となっているが、重金属などのチェックはするのか。燃料が入ってきたり、灰を運んだりと輸送による影響も出てくると思うのだが、その可能性はあるのか、配慮すべきことではないのか。

→（事業者）工事中の排水は、最初の段階については、灰捨場と発電所と関係の無い土壌を掘っていく。その際に濁りが出るので、きちんと確認していく。大雨が降った時は、外に出さずに、工事で掘削した場所に溜まっていく、外に出さないといった対応になる。工事中の

排水、機械等の排水については仮設沈殿池に一度持って行き、先ほどの工事の同じようにチェックをしていくといった形になる。

石炭船の影響は、評価項目に入っていないものがある。騒音は炭船が着岸して掲炭していくのですが入っている。ただCO2 とかのライフサイクルについては、入っていないのが現状だ。あと、エンジンの排ガスの影響とかもあるが、ここは個別に県知事意見にも出されているので、事業者見解にて試算を出したことで対応させていただいた。

## 5. 報告事項

(仮称) 大佐山風力発電事業に係る計画段階環境配慮書に対する知事意見について

・平成 29 年 5 月 11 日に開催した第 1 回浜田市環境審議会にて審議した(仮称) 大佐山風力発電事業に係る計画段階環境配慮書に対する浜田市長意見と島根県知事意見について報告をした。

## 6. その他

## 7. 閉会